

# 1 趣 旨

## 1 - 1 背景

近年、森林に対する国民の期待が多様化・高度化するとともに、急速に進む高齢化や中高年齢者の自然回帰指向が顕著になる中で、レクリエーションや健康づくりの場として森林空間の利用に対する期待が高まりを見せています。

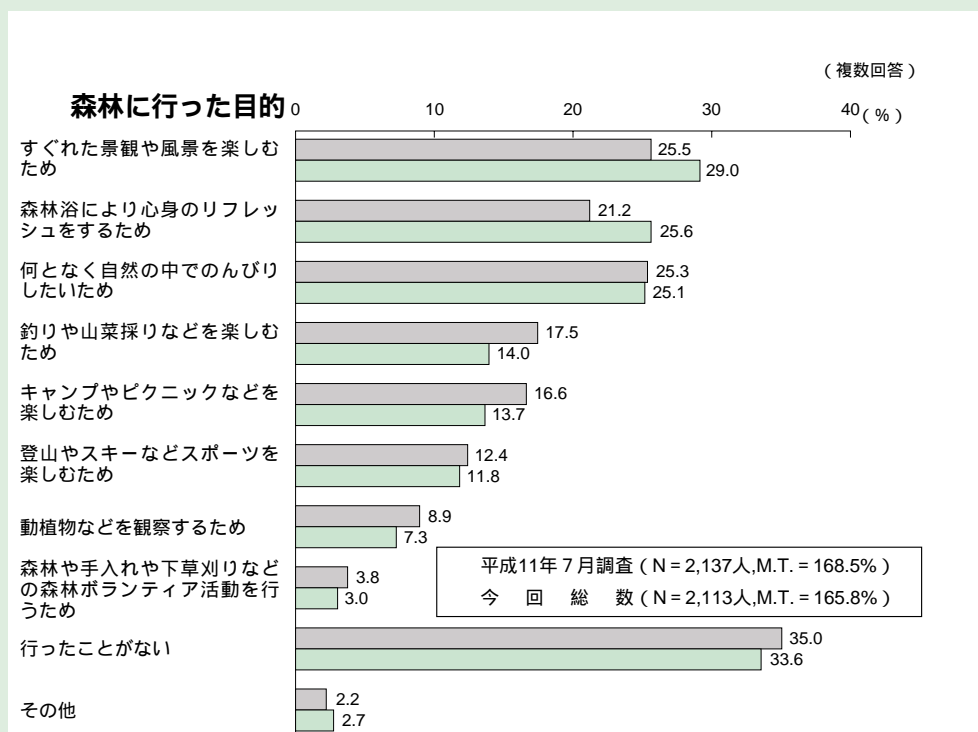
また、医療・福祉機関等においても、老人性疾病の予防や介護に森林浴等の効果を活用しようとする動きが見られるなど、健康の維持増進を目的とした森林空間の活用は、医療、福祉の分野からも関心が寄せられています。

こうした中で、森林空間を健康づくりの場として活用する森林セラピーの推進については、現在、大きな関心が持たれています。

本県は、豊かな自然環境に育まれた「健康寿命日本一」を誇る県であるとともに、首都圏に位置しながら県土の78%を森林が占める県として、こうした特性を活かした森林セラピーを推進していくことが求められています。

### 森林の保健休養機能に対するニーズ

森林と生活に関する世論調査（H15.12内閣府）



H11の調査結果と比較すると、「すぐれた景観や風景を楽しむため」、「森林浴により心身のリフレッシュをするため」を挙げた者の割合が上昇し、「釣りや山菜採りなどを楽しむため」、「キャンプやピクニックなどを楽しむため」を挙げた者の割合が低下しています。

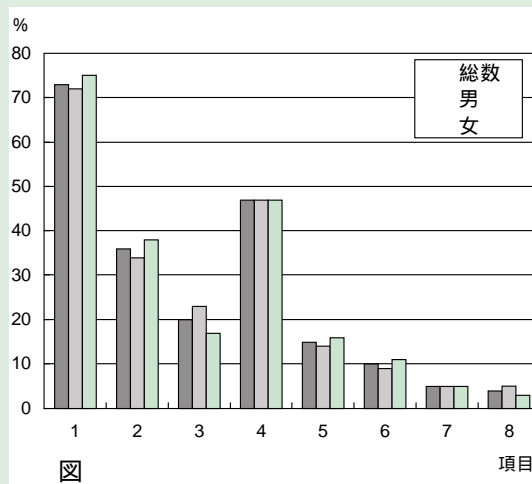
図 - 1

「県有林に関するアンケート」（H17:時事通信社）

県有林の利用に対するニーズ

単位：％

回答	総数	男	女
1 休憩や散策など心身の癒しの場として利用したい	73	72	75
2 森林公園などで開催される工作教室やエコツアーに参加して、自然体験活動の場として利用したい	36	34	38
3 下刈や植樹など森林を守り育てるためのボランティア活動の場として利用したい	20	23	17
4 教育の一環として体験学習や環境教育ができる学校林として利用したい	47	47	47
5 絵画や音楽など自己表現の場、活動発表の場として利用したい	15	14	16
6 特に利用したいと思わない	10	9	11
7 その他	5	5	5
8 無回答	4	5	3



県の森林面積の46%を占める県有林の利用に対しアンケート調査を行ったところ、県有林の利用の仕方については「心身の癒しの場として利用したい」が73パーセントと最も高く、次いで「体験学習や環境教育ができる学校林として利用したい」が47パーセントとなっています。癒し、教育、自然体験等の場としてのニーズが高いことが分かりました。

図 - 2

1 - 2 目的

森林セラピーの推進は、

- ・ 森林を活用した健康づくりの促進
  - ・ 森林に対する癒し効果を求めるビジターの増加や、新たな森林体験型産業の創出などによる地域の活性化
- など、多くの効果が期待されます。

この指針は、森林セラピーの目的や効果、フィールドのあり方、推進方法等、具体的な取り組みの手法を明らかにするとともに、医療・福祉・観光・環境・森林関係者等の連携を推進するために作成します。